

42. 骨シンチグラフィで頭蓋骨に異常集積を認めた一例

佐古田 勝 鈴木 輝康 大田 信一
 加藤 高宏 小林 清和 椋棒 巖
 山村 恭代 大田 豊承 木上 裕輔
 新田 哲久 井藤 隆太 山本 逸雄
 森田 陸司 (滋賀医大・放)
 大西 英雄 増田 一孝 (同・放部)
 松田 昌之 (同・脳外)

結腸癌の骨転移検索中に骨シンチグラフィにて側頭骨に異常集積を認めた症例を経験した。症例は 58 歳男性。下行結腸癌・水腎症にて左半結腸切除術・尿管合併切除術を施行した。術後、CEA の上昇は見られていない。術後に行った骨シンチグラフィにて左側頭骨に異常集積を認め、引き続き検索を行った。単純撮影、CT には左側頭骨内板の肥厚のみを認め、その他に異常は認められなかった。Ga シンチグラフィにては左側頭骨にきわめて淡い集積を認めた。その後経過観察を行っていたが、約 1 年後の骨シンチグラフィその他の検索にても前回と比して変化を認めなかった。

所見をまとめると、1) 頭部は無症状であるにもかかわらず、骨シンチグラフィにて左側頭骨限局的強い集積を認めた。2) 単純撮影、CT にて左側頭骨内板の肥厚のみが認められた。3) 1 年間で画像上変化は認められなかった。4) 脳実質の異常は認められなかった。これらより、左側頭骨内板に限局し、きわめて成長の緩やかな病変が推定された。頭部症状がなく組織診は施行できなかったが、文献的に考察を行った。鑑別診断としては、intraosseous meningioma, および osteoma, ossifying fibroma, fibrous dysplasia, histiocytosis 等を考えたが、後者において上記のような所見を呈するものは報告がなく、合致する報告のあった intraosseous meningioma ではないかと考えた。

43. 心筋 SPECT 画像における部分容積効果の基礎的検討

西村 圭弘 佐合 正義 片渕 哲朗
 大竹野浩史 岡 尚嗣 石田 良雄
 林田 孝平 広瀬 義晃

(国循セ・放診部)

^{99m}Tc -MIBI Gated SPECT を用いた局所収縮機能の評価が臨床応用されている。これには、壁厚の変化と心筋カウント値が直線的に対応していることが重要である。そこで、心筋 SPECT 画像において、壁厚の変化と心筋カウントの関係を明らかにすることを目的に、心筋ファントムを用いて部分容積効果 (PVE) の物理特性について検討を行ったので報告する。心筋ファントムは、中心の異なる 2 つの円柱容器の間に ^{99m}Tc 溶液を封入し、壁厚サイズを 4.1 mm~40.2 mm とした。計測方法は、circumferential profile analysis を用いて 10 度ごとに Max count を測定した。

その結果、壁厚と心筋カウントとの対応は直線関係を示さず、壁厚が大きくなるにつれて心筋カウントの変化は小さくなった。

心筋カウントの変化で壁厚を推測する際には基準となる壁厚が小さい場合には、収縮を過大評価し、壁厚が大きい場合には過小評価する。

Gated 心筋 SPECT において、心筋カウントの変化により局所収縮機能の評価する場合は PVE の物理特性を考慮すべきであると考えられた。

44. 早期再灌流後の ^{99m}Tc -MIBI 心筋シンチグラムで逆再分布現象を呈した急性心筋梗塞の 1 例

松本 雄賀 杉原 洋樹 伊藤 一貴
 寺田 幸治 山田 浩之 谷口 洋子
 大槻 克一 原田 佳明 志賀 浩治
 中川 雅夫 (京府医大・二内)

[はじめに] ^{99m}Tc -MIBI (MIBI) は ^{201}Tl と同様に、心筋血流製剤として虚血性心疾患に汎用されつつある。しかし、虚血の検出能や心筋 viability の評価などいくつかの検討課題が残されている。さらに、 ^{201}Tl と異なり MIBI は一般に再分布はほとんどないとされているが、その詳細は不明である。今回われわれは、早期再灌流した急性心筋梗塞の一例の亜急性期、慢性期に MIBI 心筋シンチグラフィを施行し、逆